

〈巻 頭 言〉

居住環境におけるアレルギー問題の特集号を編集して

池 田 耕 一

「健康住宅」、またはその反対の「シックハウス」、「化学物質過敏症」など、住宅における化学物質による室内空気汚染問題をめぐる最近の社会的関心の高まりは、この問題を長年（個人的には本院来所以来20年以上、部としては、院創設以来60年）にわたり研究してきた筆者としては、驚くほどの状況となってきている。住宅室内の空気汚染問題は、元々はたいへん地味な研究課題であり、建築学会や、空調等の関連学会の大会において数10編程度の論文は集まるものの、新聞やテレビ等のマスコミの取材がかかるなどと言うことは、年に1度でもあれば多い方であったことを思うと、この数年の状況はどう見ても異常である。おかげさまで我が厚生省も昨年（1997年）6月にかつて例を見ない住宅におけるホルムアルデヒドに関する国のガイドライン値を発表することとなり、そのことが、住宅部品PL問題との関連で、関連業界や、一般消費者の大きな波及効果を起こし、シックハウスフィーバーは、今や頂点に達したの感がある。その結果、住宅メーカーや住宅設備メーカーの技術者、町の工務店の経営者、設計事務所の社員から生活者としての市民や家庭の主婦までが、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、などと言った慣れない化学物質の性質や健康影響などの勉強に精を出していたり、いわゆる化学物質過敏症の診断と治療を専門とする我国唯一の病院である北里大学の眼科学教室には、過敏症の患者が押しかけ、2ヶ月待たないと診療してもらえないと言う状況が出現している。また、建築関係の研究者の中にも、ここへきて「室内空気質」の研究者が、にわか急増している。

上述のような、シックハウス問題は、住宅建築の高気密高断熱化という我国の気候と異なる欧米のライフスタイルが国に導入されたことが主要な要因の1つと考えられ、既述のような社会的要請によって研究が進められ、欧米化したライフスタイルを我国に導入することの問題点とそれに対する対策が解明されてくれば、いずれ事態は解決に向かうものと思われる。

しかしながら、空気汚染問題は、何も化学物質だけで起こっているものではない。カビ・ダニなどのアレルゲンによる室内空気汚染は、昔からある問題で、夏には高温多湿となる我国の気候に根ざした問題であり、簡単には解決しないものと考えられる。実際、住居におけるカビ・ダニ問題は、少し前までは、我が国の保健所に寄せられる室内空気問題のトップにランクされるものであった。最近、その座を化学物質によるものに奪われてしまったようであるが、それは、化学物質による汚染問題が急激にクローズアップされただけで、アレルギー問題が解決した訳でないことは明らかであり、筆者としては、化学物質による室内空気汚染問題が解決したら人々の室内空気汚染問題全般に関する関心も薄れてしまうことがないように願っている。化学物質汚染は、空気汚染の問題の1つに過ぎないのである。

そのような意味において、このたび居住環境におけるアレルギー問題が特集されたことの意義は極めて大きいと言える。幸い、この企画に執筆の協力をして頂いたかたがたは、筆者を除いては、アレルギー問題における我が国の代表的な研究者ばかりであり、最終的にこの特集が成功したかどうかは読者に判断を委ねるとしても、これを企画したものとしては、執筆者の陣容だけで相当程度の成果が期待できる特集となったと自負している。本企画により、我が国のアレルギー問題の現状と対策に関する或程度系統立った情報が提供できたのではないかと思う。快く原稿執筆をお引き受け頂いた著者のかたがたに心からお礼を申し上げる次第である。

なお、残念なことには、以上の執筆者に加え、アメリカの状況を報告してもらおうと思ってこの問題の世界的権威であるバージニア大学のPlatts-Millsさんに、また、最前線としての保健所での現状の取り組みを報告してもらおうとして品川保健所の国広さんにそれぞれ原稿をお願いしていたのであるが、いずれも、企画した筆者の段取りが悪く、お願いしてから締め切りまでの時間等の都合により実現しなかった。いずれ機会を改めて、これらのかたがたの原稿がいただければ何らかの形でご紹介するようになりたいと思っている。

国立公衆衛生院 建築衛生学部長